

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料400円

智永 真草千字文



- 1、字句〓乃服衣裳
- 2、形式〓半紙タテ使用。右に「乃服」、左に「衣裳」と臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観〓智永は浙江会稽の人。東晋王羲之の七世の孫に当たるといい、南朝王家の伝統を受け継いだ名手として当時より書名が高い。智永は出家して永欣寺に住し、その閣上で臨書に専念し、三十年間に臨筆した中から八〇〇本を選び、それを江東の諸寺に一本ずつ施与したという。しかし、現存する真蹟本は我が国の一本のみである。本帖は奈良朝に帰化の僧か遣唐使などによって我が国にもたらされ、王羲之の書として一旦は宮中に入り、聖武天皇の御遺愛品として東大寺に献納されたが、後民間に流出したものである。
- 4、各字のポイント

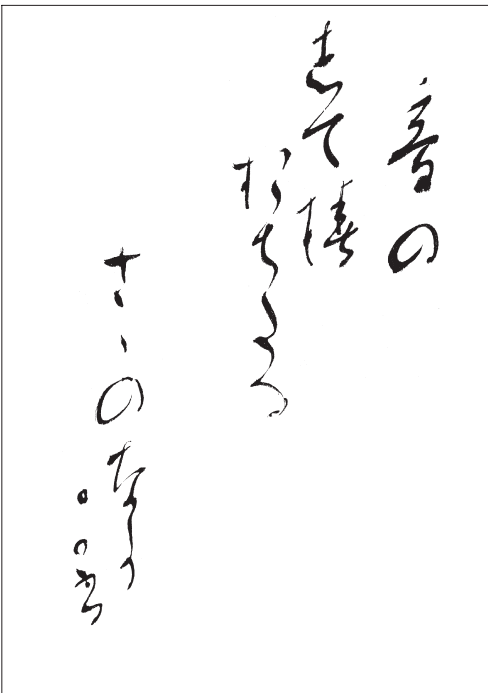
乃 一画目の起筆逆筆ぎみに強く打ち込み、そのままの筆勢で。二画目は更に強く打ち込み、筆を引き上げながら転折へ、転折では軽くおさえ、△部では軽く突いてから筆を持ち上げ、徐々に筆圧を加える。(…の部分)

服 逆筆により強く入筆。△部で筆の裏面を使い○部では筆を回さず表面に返す。

衣 服を受ける形で入筆。二画目は向性に。

裳 四画目△部で三画目より受け、筆を裏面に返して連筆。○部ではより表面に返す。衣部二画目は、始め筆をかぶせるが後半はすくうように。

昇試第三部 (漢字・かな) (予告) (三月二十二日締切)



平岡華雪先生書 音のして椿落ちたる笹の中(鬼史)



平岡華雪先生書 青松終古の春(呉楡)

「漢字かな交じりの書」

への取り組み

本会は今回より「漢字かな交じりの書」を創設し、みなさん共々、順次理解を深めながら、従来の漢字・かな部門に迫る意気をもって挑戦してほしいと念願しています。

現在、日本語の表記は「漢字かな交じり」なので、当然「漢字かな交じりの書」があつて何の不思議もありません。要点は、漢字とかなの調和です。私はかなを漢字の調子に合わせた力強い調和を心がけています。それと、上手に美しくとか、あまり奇を狙わない、自由闊達な、ごく普通の書き方でよいと思っています。

ただ最近、この漢字かな交じり書について、書に無縁な現代人にも読み易く……という点が強調されてきました。次に主な要項を列記したいと思います。

- ・漢字は行書体、草書体は使わない。
- ・かなは変体がなは使わない。
- ・連綿は多字は避ける。(二〜三字は許容)
- ・文節による「間」を効果的に。
- ・芸術性の模索が必須。
- ・漢字志向のみなさんは、かな単体の習得。

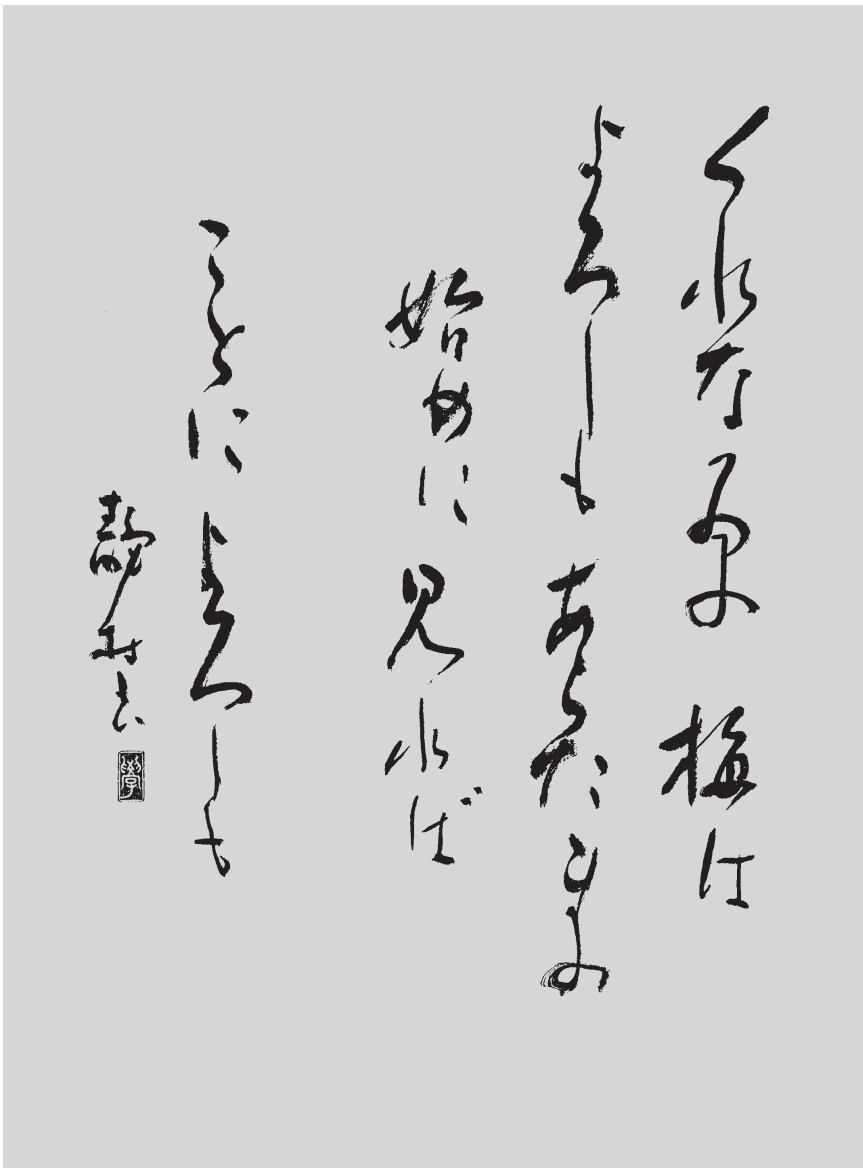
鈴木静村書

くれなるの梅は
よろしも あらたまの
始めに 見れば
ことに よろしも
(齋藤茂吉)

書后感

普段の手紙等は四字〜五字の連綿。二〜三字連綿は私の呼吸リズムではなく、一見キコチない用筆です。漢字は行書体を提唱、この「見」の崩しでも読める?ですが、みなさんは行書体を使ってください。作品全体としての山場の盛り上げに一工夫を期待しています。
・出品への勧め この作例に捉われることなく、思い切つて新味を開拓してほしい。

- ・バーコード券
右空欄に漢字と記入して出品して下さい。
- ・出品料無料



A

高橋 香樹 先生 書

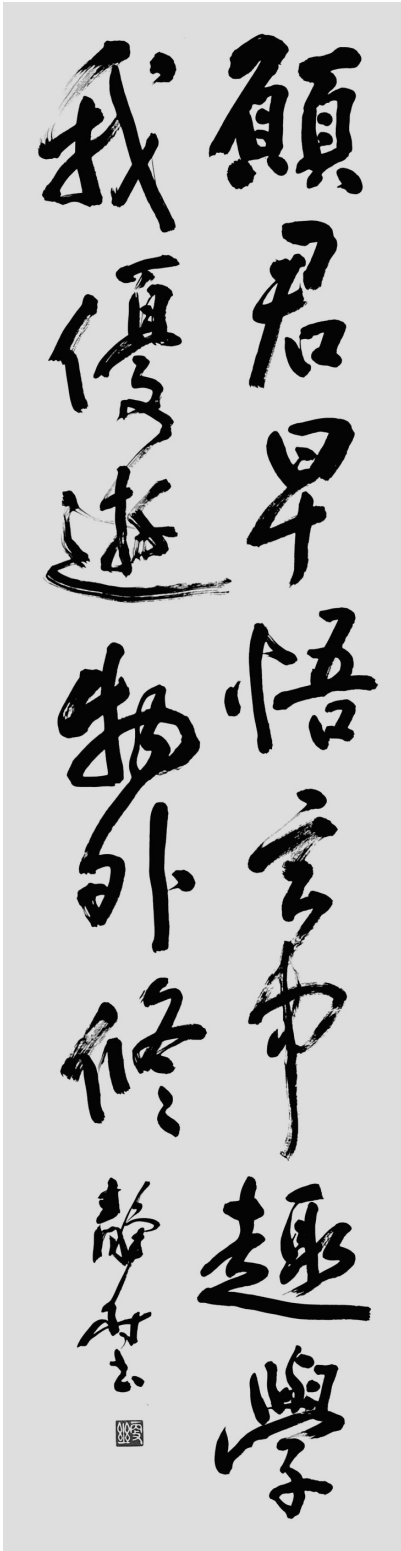
願君早悟玄中趣 學我優遊物外修 (無名人)
願くは君早く悟れ玄中の趣、我は学ぶ優遊物外の修。



B

鈴木 静村 書

筆の弾力を使って表出される渴筆に魅了されて久しい。今回はその渴筆を多用しての作としました。墨継ぎは「趣」と「物」ですが墨量少ない為に明確になりませんでした。「中」の懸針は数呼吸にて連筆。連綿は二ヶ所。しかし、全体的に次字への継がりに欠けるようです。



願 この形は古典に多い。君 二画目は右へ突き出してもよい。玄 三画ではない。玄を意識。趣 取末筆は長すぎ、短く。我 一画目と二画目を離してゆとり。優 旁は崩しすぎ、行書体を字典で。物からの連綿線は太さが目障り、細めにスッキリと。
訳：君に願うは外でもない老荘の学問の奥義を悟ることであるが、我もまた世俗を離れ超然としてのどかに暮らすことを学ぼう。

予告 昇試第一部漢字 (三月二十二日締切)

春回雨點溪聲裏

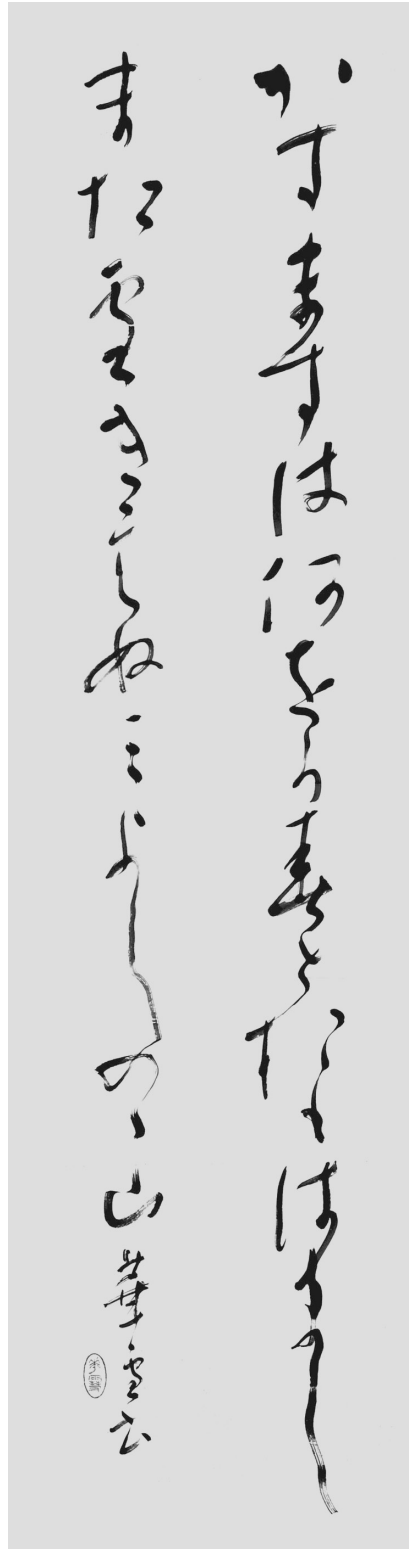
人醉梅花竹影中 (楊誠齋)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

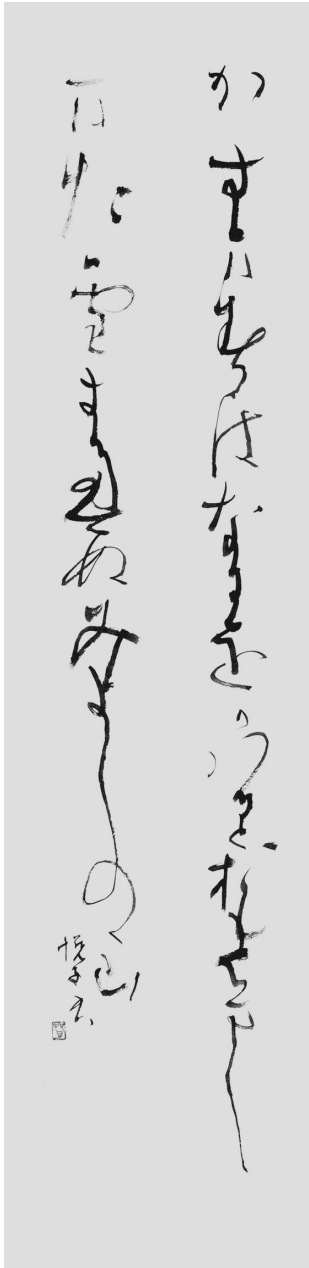
かすますは何をか春と思はましままだ雪きえぬみよしの山(統後撰和歌集 西行法師)
かすますは何を可春と於もはましままた雪きえぬみよしの、山



B

長野悦子先生書

かすま^{ます}すはな^るを可^か八^はると於^おも者^は万^まし万^また雪^さ支^さ盈^えぬみよしの、山



『統後撰和歌集』(しよくごせんわかしゅう)は後嵯峨上皇の命により編纂された一〇番目の勅撰和歌集。撰者は藤原為家。二〇巻。歌人は藤原定家、藤原俊成、後鳥羽上皇、後嵯峨上皇などでおよそ一四〇〇首を納める。

学び方

一行目「かす万春は」放ち書き、「な^るを可^か」^八「於^おも者^は万^まし」が密の部分で連綿線も短く。二行目は潤濁の変化を意識しながら、「万^また雪^さ」ゆったりと濁筆に「支^さ盈^えぬ」で密度をあげ線の太い細いの変化も組み合わせ、「みよしの、山」は自然に右へ傾くように終筆。

西行の歌は、人生を歌うと同時に自然を歌うものが多い。
なお、冷泉家時雨亭文庫に、撰者自筆本が伝存しており、昭和五十九年に重要文化財に指定された。

予告 昇試第一部かな(三月二十二日締切)

幾山河越えさりゆかば寂しさのはてなむ国ぞけふも旅ゆく(若山牧水)

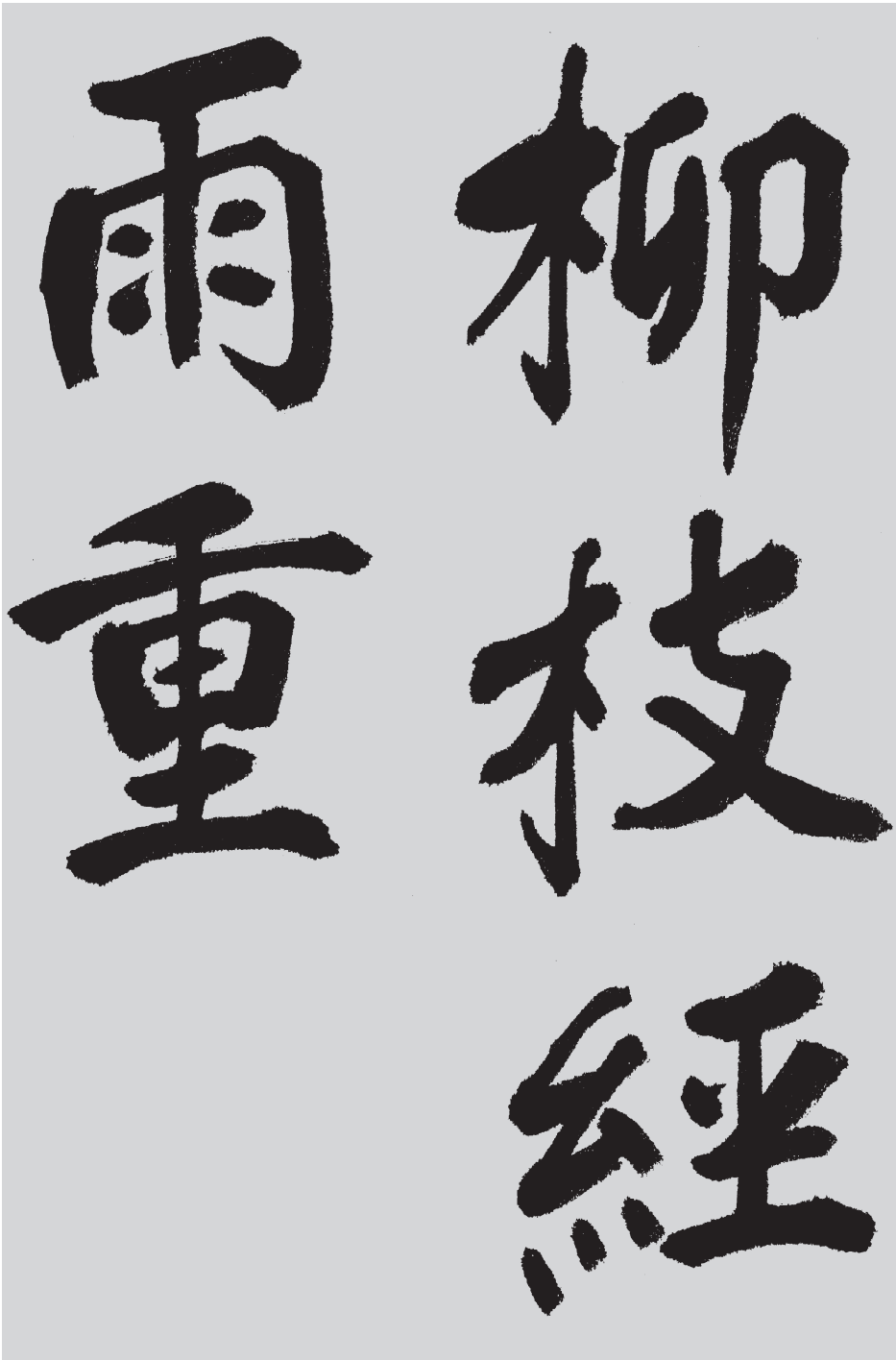
- ◆注意
 - ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

柳枝雨を経て重し(張謂)
訳:柳は雨にあって枝が重く垂れている。

〈磨墨作のよさ〉

半紙作品は墨液ではなく、磨墨して書いてほしいものです。どれ程墨液の質がよくなっても、磨墨の味は違います。出品作で磨墨で書いた作品にはどこことなく爽やかさがあります。

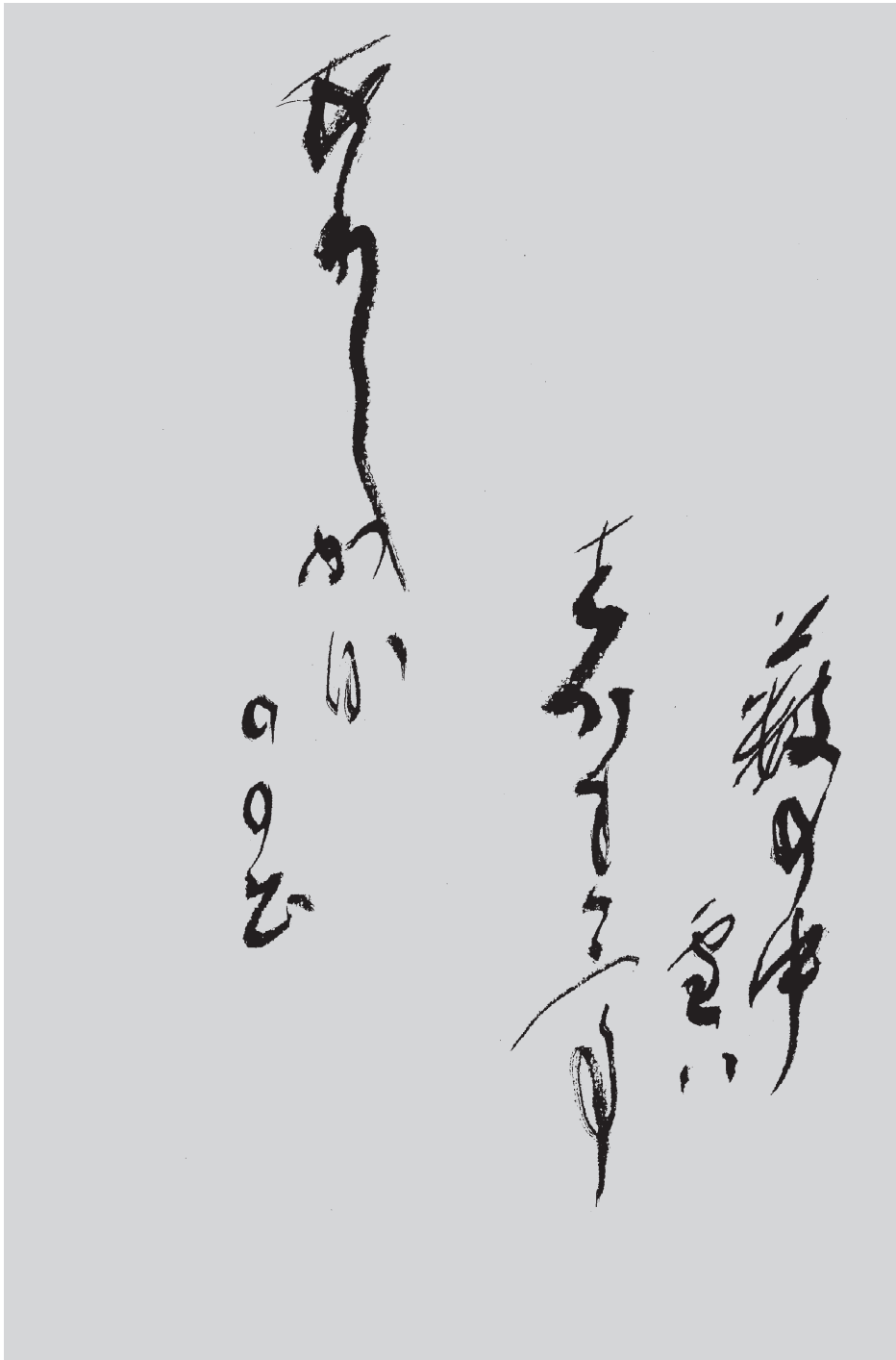


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

藪の中雪は敷かれてありしかな(草田男)
藪の中雪八志か連亭アリしか那



〈余白を活かした変化を〉

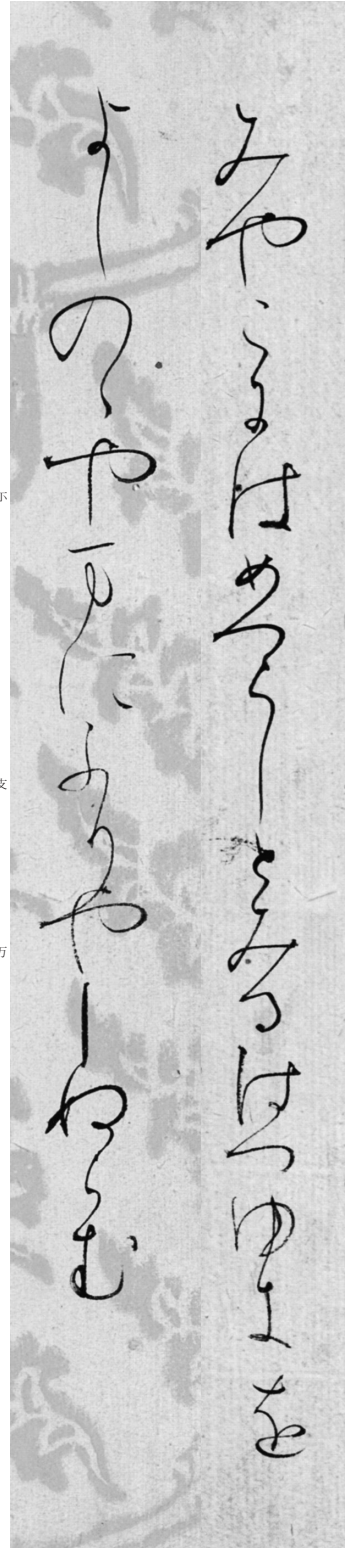
左余白を大きく占める散らしは華雪先生独特の手法です。表出文字によって均衡を図り、余白を活かす手法です。文字が余白に埋れてしまわないように、筆圧の利いた弾力的な書線、大小、字幅の変化等、調和を考えて下さい。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

北島 菁 丘 先 生 担 当 粘 葉 本 和 漢 朗 詠 集 (上 卷) 伝 藤 原 行 成 筆

※ 条 幅 臨 書 部 は 出 品 料 無 料 で す。



みやこにはめづらしとみるはつゆきをよしのくやまにふりやしぬらむ

(二玄社)

【解説】

平安時代中期から爛熟期に入っていた仮名作品は、机上芸術として鑑賞されていましたが、大字仮名への運動の展開は昭和二十八年頃から関西の書家より始まりました。

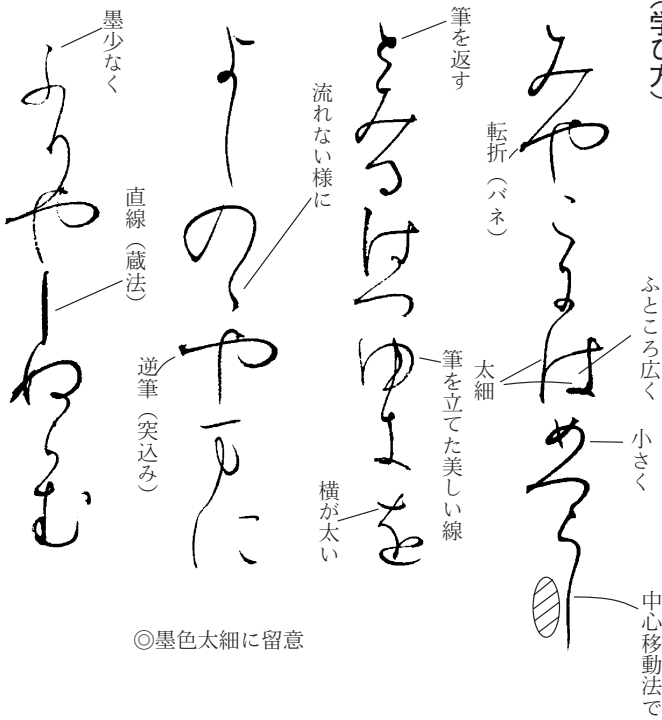
小字仮名で学んだ基本を基盤としての研究が大切な事は申す迄もありません。

今回はその要素として「線」を採り上げました。

- 抑揚のある太い線と強い線。
- 滲む線と掠れる線（潤筆と渴筆）
- 素直な線と突込みの効いた線（順筆と逆筆）
- 直線と曲線の緩急（速筆と遅筆）
- 弾く線と抑える線

これらの幾つもの要素が噛み合い線と形とが表裏一体となって表現されるには「書く」という反復練習の中から生まれるものと思います。それらがよい「眼」となって感性を高めていく事になると思います。

(学び方)



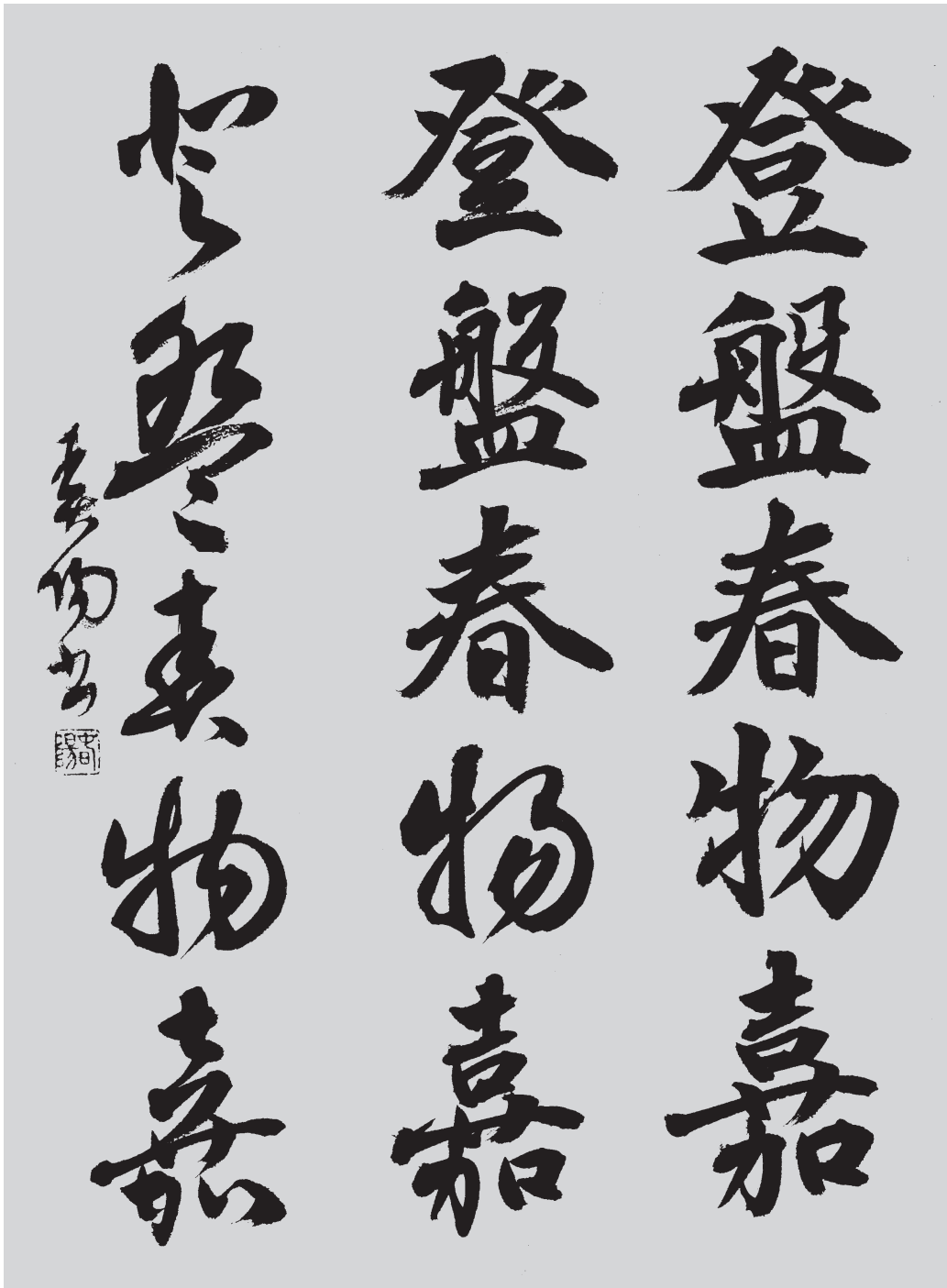
◎ 墨色太細に留意

◆ 注 意 ・ 条 幅 臨 書 部 の 出 品 は バ ー コ ー ド 券 右 空 欄 に 条 臨 と 記 入 す る。

星野春陽先生書

登盤春物嘉（周紫芝）
盤に登る春物嘉し。

訳：この世は新年となり五辛盤の上には各種の菜が盛られて清嘉である。



予告 昇試第二部漢字（三月二十二日締切）

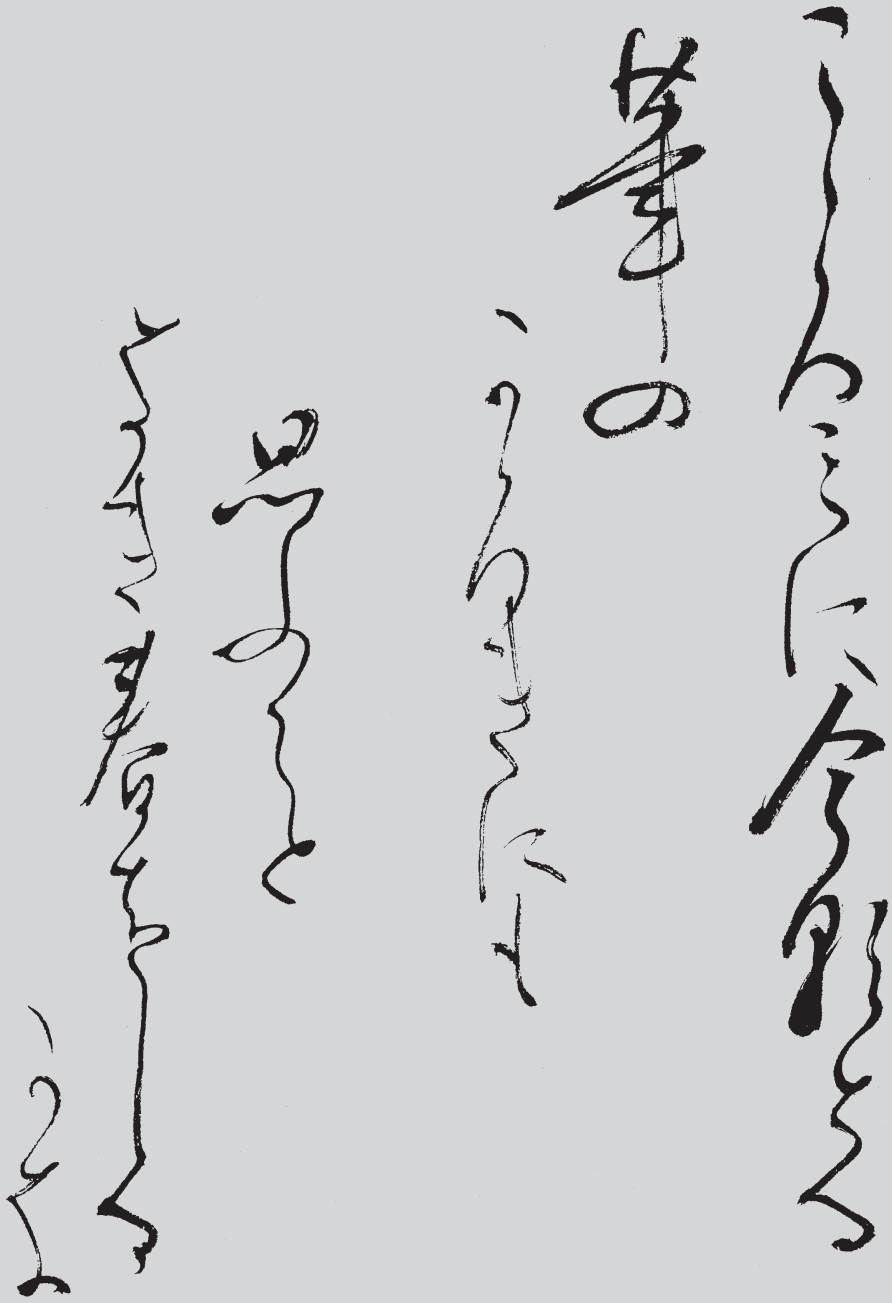
守黙樂無荒（関函）

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

随 意 部 参 考

高塚竹堂先生書

試みに今朝とる筆の軽きにも思ふことなき春をしるかな（有彰）



予告 昇試第二部かな（三月二十二日締切）

さくら花日ぐらし見つつ今日もまた月まつほどになりけるかな（万代和歌集）

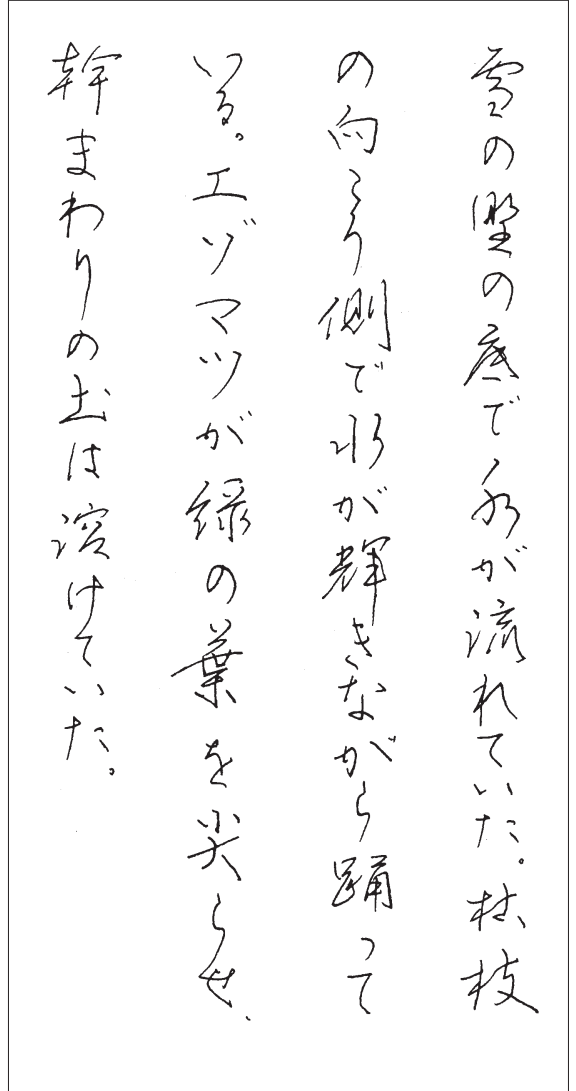
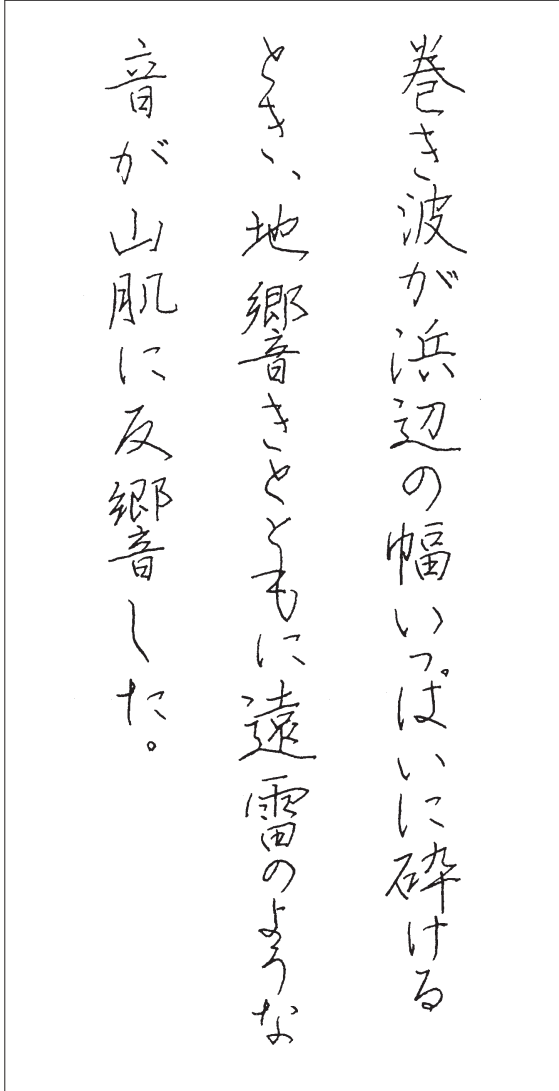
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

雪の野の底で水が流れていた。枯木の向こう側で水が輝きながら踊っている。エゾマツが緑の葉を尖らせ、幹まわりの土は溶けていた。

「月光のさざ波」立松和平

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (4) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。
- (5) 課題1 六〇〇円
- (6) 課題2 三〇〇円

課題1 石原春香先生 〒三七〇一〇八七

高崎市楽間町二四〇二一

課題2 松浦江波先生 〒五三〇一四三

相模原市緑区橋本六ノ四二ノ一九

課題2 (初段階以下)

巻き波が浜辺の幅いっぱいには碎けるとき、地響きとともに遠雷のような音が山肌には反響した。

「椿と花木」津本陽